

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向け取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	表玄関が常に施錠となっている。利用者が自分でドアを開ける事ができないのは、身体拘束であると職員は周知している。しかし、施設周辺の道路は傾斜で舗装も十分されておらず転倒リスクが高いと予測することから開錠していないのが現状である。 危険の予測をするだけでなく、安全、安心に過ごせて頂けるような環境を提供するためにも、職員ひとり々の認識と意識改革が課題であると考え。	日中、表玄関は施錠せずに、利用者の「外に行きたい」という気持ちを尊重し、職員が同伴して、危険のないように利用者の行動を見守ることができる。	I. 職員の身体拘束に対する意識の向上方法 ①身体拘束の学習の取り組み 身体拘束の研修会に参加して学習し、参加者は後日施設内で伝達講習会を開催する。この研修会に関しては全員が参加するまで伝達講習会を開催する。 管理者は全員受講できるよう開催日の勤務配分の調整に配慮する。 ②身体拘束委員会が月1回開催するので、身体拘束に関わるアクシデントが発生した際には徹底して分析を行い対策を立てる。 この委員会の議事録が現場に活かせる学習資料となる。 II. 思いに沿う行動制限しない取り組み方法 ①家族に日中施錠しないことで生じるリスクの同意を取る。 ②施設周辺の近隣の方にも協力を得る。 ③敷地外の舗装整備、敷地内の危険箇所を整備する。 ④利用者の気持ちを受け入れ、できるだけ待たせず対応できるように職員間の連携並びに応援体制を検討する。 ⑥離施時の搜索手順を徹底する。(定期的な実地訓練)	6ヶ月
2	4	運営推進会議での家族様の参加率がゼロになった。(毎回参加していた御家族が、その利用者様の退去により参加がなくなる) 現在は、運営推進会議の開催内容の報告書を郵送するだけになっている。	参加家族を増やすことができる。	①会議の参加を電話で呼びかける。 ②請求書を送る際に案内文と、それ以外に自由に意見を記入出来るように返信封筒を同封する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。